

「桜の季節(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

気象庁の職員が靖国神社の桜を見て「開花宣言」をしてから、ものの一週間もしないうちに、東京の桜は満開になってしまう。卒業式には遅いし、入学式には早すぎる。何とももったいない気がする。思い切って3月10日頃を修了式にして、4月1日を入学式にすれば、ちょうど満開の桜の中でお祝いの式ができるだろう。



教育の森公園の桜は、比較的日当たりが良いので、すいぶん咲いていた。遠目には満開にも見えたが、近くで見ると、「五分咲き」といったところだろう。



毎年不思議に思うのが、こういう咲き方をする花があることだ。枝はいくらでもあるのに、わざわざ太い幹から直接花を咲かせている。枝のほうは、必ず花が散ってから葉が出てくるのに対し、幹から直接咲くものは、葉と同時に出てくるのが興味深い。そのあたりに、この咲き方の秘密(理由)があるのだろう。



教育の森公園の桜の樹を全部見てまわったら、幹から1輪だけ咲いている桜もあった。どうしても咲きたかったのだろう。幹の色との対比で目立つので、きっとハチが送粉に来てくれるにちがいない。



「桜蔭会館(おういんかいかん)」の桜も見事だ。春日通り沿いにあり、私の職場と隣接しているこの古風な建物は、お茶の水女子大学の同窓会が運営している。私はずっと前に、ここの集会室で「神秘のオーロラ」という題で、講演会をしたことがある。まさしく今の時期は「桜蔭」の名にふさわしい、美しいたずまいを見せている。